

## 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2795600010		
法人名	有限会社 ディスカバリー		
事業所名	グループホームホリ		
所在地	大阪府泉南市中心路2丁目1860番地の1		
自己評価作成日	平成 26年 4月 25日	評価結果市町村受理日	平成 26年 7月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvsoCd=2795600010-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvsoCd=2795600010-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 26年 5月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活に応じて、職員が対応の仕方をかえてより良い雰囲気や、楽しく過ごせる日々を叶えられる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に定着した医療関係の有限会社が運営するグループホームで、同じ敷地内に同系列の病院と老健があります。開設後11年の事業所で、日当たりが良く、明るくてゆったりとした居間からは、周辺の緑のある風景が見渡せ、季節感のある鯉のぼりやひまわりなどの貼り絵を壁画にし、手芸作品や書道作品等を飾り、ゆったりと過ごせる共用空間となっています。職員の退職者は少なくベテラン揃いのため、利用者は地域とのさまざまな交流を楽しみ、訪れるボランティアと一緒に大正琴、うた、ハーモニカ、紙芝居、フラダンスなども楽しんでいます。利用者は、医療的な不安もなく、ゆったりとした表情で過ごしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、個人の尊重や家庭的な雰囲気作り等、いつも念頭に置いてみんなで協力して、入居者様の方達と楽しく毎日を送っています。	「個人の尊重」「地域のみなさまと認知症進行の防止」「家庭的な雰囲気作り」をホームの理念とし、明示しています。定例のヘルパー会議や毎日の業務を通じて方針を職員間で共有し、熱心に地域活動を行っています。また、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育所に訪問させて頂いたり、保育園児が来て下さったりしています。家族様が参加しておられるボランティアさんや家族様が紹介して下さったボランティアさんに来て頂いております。GH側として、廃品回収等にて、地域との交流の一環としています。	地域の保育所からは、年数回園児の訪問を受けています。また、保育所の誕生会や発表会の時には、ホームの利用者も招待され交流しています。中学生が職業体験としてホームを訪れ、利用者とお話をする機会を持っています。地域の作業所へは、古新聞や段ボール等の廃品を提供し、作業所からは、和太鼓の演奏や焼き芋販売にきてもらっています。大正琴、うた、ハーモニカ、紙芝居、フラダンス、会話ボランティア、銭太鼓、3B体操(道具を使用した体操)等の定期的な訪問を受けています。利用者と共に子育て支援センターへ出向いたり、乳幼児を連れた母親がホームへ訪問したりすることもあります。管理者は認知症ケア専門士として、キャラバンメイト養成講座の講師や認知症サポーター養成にも協力する等、対外活動に力を入れて地域貢献に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービスの意見交換や運営推進会議時、話しあいを行っています。 認知症ケア研究会を地域の施設関係者と立ち上げ、地域の皆様に利用して頂けるよう場所を提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で、前回から2ヶ月間の行事や入居者様の様子の報告と、これからの予定をお話しし、御意見を頂き参考にしています。	運営推進会議は規程を作成し、2カ月に1回、定期的開催しています。市担当職員、地域包括支援センター職員、地区福祉委員、民生委員、ボランティア、総合生活相談員、利用者家族、事業所職員等でメンバーを構成しています。最近の会議では、ホームでの行事や新しいボランティアの誕生等について報告しています。また、認知症サポーター養成講座等の取り組み、介護体験談等について話し合っています。その他、利用者と共に出かけられる場所を教えてもらったり、ビーズ手芸のボランティアに来てもらう等、ホームの利用者の活動に活かしています。	運営推進会議の議事録については、欠席された方だけではなく、おたよりと共に家族全員にも送付してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当者とは、サポーター養成や、認知症ケア研究会も立ち上げ、みづに連絡を取りながら、一緒に取り組み協力関係を築くように取り組んでいます。</p>	<p>運営推進会議に出席する市の担当職員からは、事業所運営や利用者支援について、助言を得ています。認知症サポーター養成や認知症ケア研究会等、市と共に取り組み、協力関係を築いています。市の認知症相談事業には、管理者が相談窓口の一員として関わっています。関係機関の意見交換会に市担当者も出席し、市役所へ出かけた際はその都度情報交換を行い、連携を深めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠については、帰宅願望等により、閉めておりますが、内側にもドアチャイムを設置して対応しています。職員が付き添い、散歩等の気分転換を図る時もあります。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて、外部・内部の研修を行い、職員は人権や身体拘束についての理解を深めています。事業所の運営規程や契約書に、身体拘束をしないケアについて表明し、法人全体でも「身体拘束廃止委員会」を発足し、職員の意識向上に努めています。フロア出入り口の施錠については、利用者はエレベーターを利用し、各階を自由に行き来することが可能です。1階玄関は、利用者がドアにあるチャイムを鳴らし、職員が対応しています。外出を希望する利用者には、職員と共に散歩に出る等して気分転換を図り、自由な暮らしと安全に配慮しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>実際の虐待事例をもとに、内部・外部（併設のケアセンター）にて、学ぶ機会を設けています。虐待防止の研修に参加し、虐待防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談員にその都度、対応してもらっている。 この時、一緒に話す機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前相談時、または、入居後においても、その都度、対応し説明をして、理解・納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族様と話すよう、運営推進会議に家族様や地域ボランティア等の方々を含め、意見交換をしています。 直接伝える事が出来ない事項等の為、ご意見箱を設置・対応しています。	職員は利用者、家族の意見や要望を確実に把握し、実現するよう取り組んでいます。各ユニットで「伝言ファイル」を作成し、家族が来られたら予め用意をしていた内容を説明して、説明した職員と家族がサインをしています。 不安のある利用者について、家族に相談した際、以前針仕事が好きだったと聞き、針仕事をしてもらって落ち着かれた事例があります。意見や要望については記録に残し、職員間で共有しながら速やかに対応しています。各階のエレベーター前に意見箱を設置しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様の訴え・希望・意見等を、ヘルパー会議や申し送りで話しあっています。	月1回行うヘルパー会議で意見を聞くことや、日常的な会話から要望や提案を聞いています。職員からの提案で、ヒントを得て利用者の生活改善に反映させた事例があります。職員への連絡事項については、申し送りノートに記載し、朝礼時読み上げ、情報を共有しています。管理者は日常的に意見が言いやすい雰囲気作りに心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、色々な研修に参加させられたり、個々の努力や実績等を報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部・外部研修に参加し、介護力の向上に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスの意見交換会を2ヵ月/1回行い 質の向上に取り組んでいます。年に1回行われているWAO祭りにも参加し交流を深めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に話す機会を作っております。また入所後にも声掛けを強化し不安等話やすい環境作りをしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族さんも加え、面談し話す機会を作っております。また入所後も面会に来られた時など会話するようにし、不安等話して頂ける環境作りをしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他科受診が必要な際等、家族さんに同行が見込めない場合、こちらでの対応をさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	物事を同じ目線で見える努力や、共に食べたい物等の希望を聞き取り入れる様にしています。また家族さんと話する時の様に、気軽に話しができる環境作りをこころがけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と、外泊・外出された際、不穏状態となった場合、いつでも戻って来て下さいと声かけを行っています。私達も傍にいたいと思って頂く事で、少しでも安心し、外泊、外出の機会を増やす事が出来る様に望んでいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様だけでなく、友人・知人の方の面会も受け入れている。中には、親しい方の葬祭に行かれた人もいます。	利用者にとって馴染みの友人や、入居前まで利用していたヘルパー、住んでいた地区の自治会長等の訪問があります。家族の協力を得ながら、親しい人の葬祭や、墓参りに行く利用者もいます。携帯電話や手紙等でのやり取りの際も支援する等、職員は馴染みの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんが孤立しない様、できるかぎり声掛けし、ホール等へ来て頂き、他入居者さんと会話・トランプ・将棋・パズル等行う様しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	野菜を作っている方の家族様が退所後も野菜を持って来てくださったりしています。その時に退所した方の話をしたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、生活歴の聞き取りを行い、今までの生活状態・好きな事・嫌いな事等とお聞きし、コミュニケーションをスムーズになる様、又、これからも生かせる様努力している。	入居時に利用者や家族等から、生活状況や希望について聴き取っています。入居後も日頃の雑談や関わりのなかで、何気なく聞く言葉を大切にしています。夜勤帯にゆっくりと時間をとり、利用者の話を聴く等、話しやすい雰囲気づくりに配慮し、意向の把握に努めています。外泊を希望する利用者、難色を示していた家族が、職員と何度か話をするうちに理解を示し、月1回の外泊が実現した事例があります。職員は、利用者の思いを受け止めて支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を聞き取り馴染みの物を居室に置いて頂き暮らし方等把握する様努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に入居者さんの状態を伝える事でその都度の対応に努めています。介護実施記録表で、毎日の24時間シートにより現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや、月一回のヘルパー会議で、モニタリングや、ケアのあり方について話し合い、担当者会議録の用紙に家族様の意向や Dr の意見を記入して頂き、介護計画を作成している。	介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は毎日のケア実施状況を「ケアプラン実施記録表」に記録し、モニタリング結果を「モニタリング実施記録表」にまとめ、カンファレンスで報告しています。担当者は、ケアプラン見直しの方針を「担当者会議録」にまとめ、医師の意見と家族の要望を記入して見直しにつなげています。	毎月のヘルパー会議で実施するカンファレンスの結果を、今後は確実に記録することが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りで、日々の様子・変化の把握、ケアプラン実施記録表による実践できているか確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ヘルパー会議や申し送りを利用し本人のニーズに合わせてその都度、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月の行事や、外出日、イベントのポスターを貼り出す事で楽しみをもってもらい、会話のコミュニケーションの一つとしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科・眼科往診・訪問看護があり、本人・家族様の希望にて、往診以外にも受診しています。	全ての利用者が、協力医療機関の内科医師の訪問診療を月2回、訪問看護を週1回受けています。その他の診療科目について受診が必要な際は、家族の要請があれば職員が通院介助を行っています。協力医療機関と連携し、急変時対応についての体制も整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、利用者個々に接してもらい、体調の変化のチェックをしてもらっている。受診指示を受けたり、処置の仕方等を伝えてもらっている。看護師自身にも、個人カルテに記入してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症による不穏・徘徊にて家族付き添いが困難な場合には、主治医・家族と話し合いグループホームでの治療を行う等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症による嚥下障害、異食行為については早い段階で話し合いを行い、症状悪化がみられると主治医により家族との話し合いがもたれる。入居時に家族様と話し合い、書類等に記入して頂いている。重度化・終末期に対しては、面会・電話等で連絡をとっている。	ホームでの看取り実施の方針はなく、医療処置が必要になった場合は、同系列の老健や病院など、母体法人全体で対応するよう体制を整えています。利用者が重度化した場合、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。利用者の状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、看護師、家族と話し合い、対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防士による、救命講習への参加を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接される施設との合同非難訓練を定期的に昼・夜想定にて実施しています。	年に2回、消防署の指導のもと、病院や老健を含めて母体法人全体で避難訓練を実施しています。備蓄については、グループホーム内でもお米を主体として食料を準備しています。水の備蓄については、地下水汲み上げ用の貯水タンク内の水を活用することになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ等、入居者さんのプライドを傷つけないように注意しています。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員は内部研修で「倫理及び法令」「プライバシー保護」を学び、意識の維持・向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通がうまくできない方にも、上手く言葉かけし、希望や意思決定が出来る様に対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事に対してその日の、その人のペースに合わせた対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出日は前もって声かけし、洋服を選んでもらっています。男性の毎日の髭剃り支援は欠かさず行います。月一回の理美容のボランティアさんにも来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を聞き外食の行き先にかしたり、手作りメニューやおやつに取り入れたりしています。 テーブル拭きや下膳等手伝ってもらっています。	利用者は、業者から届くバランスの良いおかずと、ホームで炊いたご飯を食っています。魚は骨まで食べられるようになっており、カルシウムも容易に摂取できるようになっています。咀嚼が弱い方には、刻み食も提供しています。職員は見守り、話しかけたりして食事を楽しめるように支援しています。利用者は片付けやテーブル拭き等、得意なことで役割を持っています。ホームでは月に1回、利用者の希望を聞いて、食べたい物を一緒に作る取り組みをしています。回転寿司やレストランなどに出かける等、外食を楽しむ支援もしています。職員は、手作りの回数を増やすことも検討しています。	現在、業者から届く食事は利用者分のみであり、職員は検食等で味加減が確認できない状況です。今後は、職員1名でも1日1食、利用者と同じものを食し、味付けや食事内容等、意見を出せるよう検討してはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を毎日行っています。食事以外にも起床時・入浴時・体操後・おやつ時・就寝前にも補水を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔声かけの実施、義歯のポリデント実施(週2回)希望者は毎日行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせて、時間毎にトイレ誘導をしています。	比較的重度の利用者が多い中で、排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。声かけや前誘導を確実に行うことで、自室のトイレでの排泄ができています。利用者の大半が、ほぼ自立の状態となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品の摂取や、体操の実施・廊下を歩行訓練・水分摂取を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。入浴を嫌がる方には、気の合う利用者さん同士で誘い合って脱衣所まで来られたり、時間をずらして、入浴して頂いています。	利用者は週3回の入浴を楽しんでいます。入浴を好まない利用者には、職員が様々な工夫を施し、週3回の入浴ができています。季節感を味わうため、ゆず湯などの行事風呂も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて一人であることが苦痛になっている入居者さんには、眠れるようになるまでホールですごして頂いたり、気分がほぐれるようにお話ししたり TV を見たりして入眠の手助けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の薬事表は職員が見れる所に保管されている。薬が変更になった場合は様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	字を書くのが得意な入居者さんには、習字やメニュー書き、手先の器用な入居者さんには、広告でゴミ箱折りをしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数に分けて、毎年季節ごとに花見に行っており楽しんでいます。	利用者は、玄関前のイチゴ摘みや庭の草取りに出ています。買い物にも一緒に出掛けています。毎月1～2回は年間行事や外食等に皆で出かけています。アジサイを見に行ったり、隣の老健へ三味線を聴きにいったりもしています。誕生日の方、保育所に招待されて出かけています。前回の外部評価以降、日常的な外出支援についても記録欄を作り、記録しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は家人・本人の了解の元行い、預かりを希望されますとこちらでの管理とさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様に伝言等ある時は手紙を書いて来られ職員に渡し、家族様に伝える方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの流し方を忘れ不快に思い、他室のトイレを使用したりされる方には、こまめに流し気持ちよく使用できる様努めています。	日当たりが良く、明るくてゆったりとした広さの居間からは、周辺の緑のある風景が見渡せるようになっています。居間には、季節感のある鯉のぼりやひまわりなどの貼り絵を壁画にし、手芸作品や書道作品等を飾り、書籍や新聞、レクリエーション用具が置かれています。3セットの長いすは、自由にレイアウトを変えて少人数で寛げる居場所を作り、ゆったりと過ごせる共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前のソファーには、思い思いの場所で座り、他の方と話をされたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、自宅で使用していた家具等を持って来て頂き、本人が家で過ごしてきた時と同じような居心地よく生活できるようにしています。	窓が大きく周辺の緑が見渡せ、明るい居室には、トイレと洗面台を完備しています。少し持ち込みが少ない居室もありますが、家族との思い出のある整理ダンスや写経作品、家族の写真を飾る居室があります。居室で遺影に電池式のローソクや線香をたて、水を供えることを日課にしている利用者もいます。居室内に書道作品を飾り、ベッドサイドに置かれた筆ペンを使い、昔の漢詩を清書している利用者もいます。お気に入りのソファがある居室など、居心地良く個性的な居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内トイレの場所が分からない人には、場所が分かる様トイレのドアをはずしたり、居室の前に表札や目印を置いて、自立した生活ができる様にしている。		